

日本一を目指せるチャンス到来！！

右の写真に見覚えがあるのではないかな。最近あちこちに選挙ポスターの掲示版が設置されている。参議院選挙の投票日が7月10日に決定した。

若者の政治への関心が低いとよく言われるが、政治は難しいものではない。将来の方向を決めるためのものだ。日本では高齢者の人口が多く、政治家は票を集めるために、高齢者を優遇するような政策を掲げることが多い傾向にある。将来のある君たちは、選択する自由・権利があるのに、放棄してもいいのか？

最近あまり報道されなくなったが、以前は香港での民主化運動が話題になっていた。香港ではイギリス領であったということもあり、かつては民主的に選挙も行われており、1999年の返還後も一国二制度が続いていた。ところが中国政府は、共産党一党支配を押し進め、今は民主派が選挙に立候補することさえもできなくなっている。香港の人々は、将来を選択する自由・権利を奪われてしまった。この将来を選択する自由・権利は与えられるものではなくて、先人の苦闘のもとで勝ち取ったものだ。2016年から選挙年齢が18歳になっており、今年4月からは成人年齢も18歳となった。選挙権を行使することも、大人の責任の一つだ。期日前投票もできる。何より、「投票率日本一の高校」を目指すチャンスだ。



転ばないのがえらいのではない

“ *The greatest glory in living lies not in never falling, but in rising every time we fall.* ”

「生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことではない。転ぶたびに起き上がり続けることだ。」

ネルソン・マンデラ（南アフリカの黒人政治家、ノーベル平和賞受賞者）

前回の寅年、2010年6月11日、サッカーのFIFAワールドカップ南アフリカ大会の開会式が行われた。南アフリカ共和国は、かつてアパルトヘイトという政策を行っていた。

「アパルトヘイトは南アフリカで進められた人種隔離政策。白人と有色人種を『分割』して統治することを意味する。・・・土地の大半を白人が所有し、都市部に住む黒人の多数が狭い居住区やスラム暮らしを余儀なくされた。白人の就業が優遇され、白人専用の鉄道車両、レストラン、ビーチなども設けられた。」

(<https://www.asahi.com/topics/word/%E3%82%A2%E3%83%91%E3%83%AB%E3%83%88%E3%83%98%E3%82%A4%E3%83%88.html>)

彼は、アパルトヘイトの撤廃に向けて活動を行ったことで、反政府運動を扇動したとして終身刑の判決を受けた。そのため27年間獄中で過ごしたが、それでも諦めず、アパルトヘイトを撤廃させ、最終的に大統領にまでなった。その人物の言葉だけに、説得力がある。挑戦しなければ失敗はないが、成長もない。

ジャッキー・ロビンソンを知っているか？

アメリカのメジャーリーグベースボールでは、今日本人の大谷翔平が大活躍しているが、かつては、白人だけの世界だった。黒人への差別をはねのけた彼の活躍が、黒人にメジャーリーグへの道を切り拓いた。1945年4月15日の彼のデビューにちなみ、毎年その日は、全てのチームの全員が彼の背番号「42」をつけ、その偉業を称える。『42～世界を変えた男～』という映画を観てみたい。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩